文化祭 楽しくおいしく

伊良湖岬中で最後 在校生ら盛り上げ

田原、来春に統合

田原市の伊良湖岬中学校で三日、閉校前最後の文化祭「みさきフェスティバル」があった。生徒が企画した迷路やボウリングコーナーが設けられ、在校生らがスピーチや太鼓演奏などを披露した。

一九四七年に創立した同校は少子化のため、来年三月末に閉校し同年四月に市内の別の地区の福江中学校と統合する。跡地には、老朽化が進む伊良湖岬小学校の新校舎を建設し、二〇二一年に完成予定。

来場者はお化け屋敷や箱の中身を当てるゲームなどを楽しんだ。射的では、伊良湖岬小の児童が割りばしで作られた鉄砲から輪ゴムを放ち、的の紙コップを狙った。生徒の自画像が描かれた絵画、鳥をかたどった彫刻などの作品や、伊良湖岬中の歴史を振り返るパネルも展示した。

同校PTA委員によるフードコートにはうどんやフランクフルト、エクレア、プリンなどが並んだ。

卒業生で保護者の農業太田聖子さん(四一)＝同市和地町＝は「運動会で、校歌に合わせて踊っていたことを思い出して懐かしい。母校がなくなるのは寂しいけど、子どもたちの教育のために統合はいいと思う」と話した。福江中の生徒とは統合に向けて交流している。太田さんの次女で二年生の遥さん(一四)は「みんな盛り上がってて良かった。伊良湖岬中での思い出は忘れない。福江中の子と仲が良いので統合が楽しみ」と笑顔で話した。（中川翔太）

上伊良湖岬中の生徒が設けた射的コーナーで遊ぶ伊良湖岬小の児童＝田原市の伊良湖岬中で
下文化祭で「までい牛」を焼く2年B組の生徒＝岡崎市明大寺町の愛知教育大付属岡崎中で

福島の風評被害 払拭へ食材販売

愛教大付岡崎中

岡崎市明大寺町の愛知教育大付属岡崎中学校で三日、文化祭が開かれた。東日本大震災の福島第一原発事故で起こった風評被害を払拭（ふっしょく）しようと、二年生が福島県の食材を販売した。

食材は、福島県産の桃ジュース百二十本と「までい牛」二百食で、二年B組の生徒四十人が販売した。までい牛は同県飯舘村で育てられていた飯舘牛の血統を継ぐ肉牛。震災後、牛百頭とともに飯舘村から千葉県山武市に避難した畜産農家の小林将男さんが育てている。文化祭では、肉を生徒らが焼いた。

までい牛を食べた近くの主婦斉藤里香さん(四〇)は「甘くて柔らかいお肉だった。風評被害があるので抵抗もあったが、とてもおいしかった」と笑顔で話した。

生徒らは一学期から授業で、「福島は安心・安全を取り戻せるか」をテーマに全村避難をした飯舘村について学習してきた。夏休みには現地に足を運び、被災者の声を聞いた。住民の強い意志や前向きな姿勢を目にし、保護者や地域の人など大勢の人が来る文化祭で福島県の食材を販売することに決めた。

運営委員を務めた入江琴音さん(一三)は「予想以上の数の人が来てくれてうれしかった。食べた人からおいしいと言う声も聞こえてきて、少しでも安心を広めるのに役立てたかな」と話した。（鎌田旭昇）